

令和元年度 高等学校新入生徒の学力に関する研究（国語）

愛知県総合教育センターでは、愛知県国語教育研究会高等学校部会と共同で、毎年県内の参加を希望した高等学校等において、その新入生徒を対象に国語学力調査を実施し、結果の集計・分析及び考察を行っている。

本研究は、次の内容で、本年度分についてまとめたものである。

- (1) 調査の趣旨、調査の実施及び処理、調査結果の概要、分析結果の概要
- (2) 調査問題の構成とねらい、科別・大問別・小問別正答率、群別正答率比較表など
- (3) 調査問題及び解答例、応答分析、考察、指導上の留意点など

<検索用キーワード>

国語 高等学校 中学校 中高連携 学力調査 正答率 応答分析 読解力

研 究 会 委 員

愛知県立明和高等学校教諭	本 部 亜矢子
愛知県立守山高等学校教諭	清 野 万 葉
愛知県立熱田高等学校教諭	竹 内 麻 由
愛知県立天白高等学校教諭	林 雄 一
愛知県立春日井高等学校教諭	霜 鳥 誠
愛知県立旭野高等学校教諭	廣 瀬 民
愛知県立新川高等学校教諭	日比野 奈津子
愛知県立横須賀高等学校教諭	宇都木 達
愛知県立岡崎高等学校教諭	垣 見 優 太
愛知県立御津高等学校教諭	細 澤 美 沙
愛知県総合教育センター研究指導主事	戸 松 孝 至 （主務者）

目 次

1 調査の趣旨	2
2 調査の実施及び処理	2
3 調査結果の概要	3
4 分析結果の概要	3
5 調査問題の構成及び正答率	4
6 調査問題（一部掲載省略）及び解答	7
7 問題別応答分析と指導上の留意点	
(1) 大問〔一〕現代文（論理的文章）の応答分析，考察，指導上の留意点	9
(2) 大問〔二〕現代文（文学的文章）の応答分析，考察，指導上の留意点	13
(3) 大問〔三〕国語基礎力の応答分析，考察，指導上の留意点	17
(4) 大問〔四〕古典（古文）の応答分析，考察，指導上の留意点	21

1 調査の趣旨

この調査は、昭和30年度以来、名古屋地区国語研究会が中心となって、県内の国公立高等学校の新入学生徒を対象に実施してきた。昭和45年度からは、愛知県総合教育センター（昭和40年度より事業に参加）と愛知県国語教育研究会高等学校部会との共同研究調査として、調査問題の作成、統計的处理、結果の考察等を行っている。この調査は、次の資料を得ることを目的としている。

- ア 中学校及び高等学校における国語教育に関する基礎資料
- イ 中学校及び高等学校の国語教育の関連という観点での指導資料
- ウ 全県的な規模における高等学校新入学生徒の国語学力を捉えるための参考資料

2 調査の実施及び処理

(1) 実施の時期及び処理

各校の合格者発表後、3月下旬から4月中旬までの間に、各校の実状に応じて適宜調査を実施した。なお、解答時間は50分とした（問題用紙はA4判右綴じ、解答用紙はA4判1枚）。

(2) 参加校及び生徒数

期限までに資料の提出があった124校（2学科以上ある参加校はそれぞれの学科を1校とした）の26,173名について諸調査統計の処理をした。内訳は表1のとおりである。

（表1）

課 程	全 日 制					定 時 制	全 体
	普通科	総合学科	商業科系	家庭科系	その他		
学 科	普通科	総合学科	商業科系	家庭科系	その他		
学 校 数	86	9	4	10	15	0	124
生 徒 数	22,059	1,955	416	561	1,182	0	26,173

(3) 統計上の調査事項

各参加校には次の事項について回答を求めた。

ア 個人別得点分布

イ 各校10%の無作為の抽出による、各小問ごとの個人得点

注 「群別正答率比較表」（6ページ）のA・B・C群は、(3)イの「各校10%の無作為の抽出による、各小問ごとの個人得点」を基に各学校を順位付けし、上位9校の抽出生徒300人程度をA群、平均点付近の学校の抽出生徒300人程度をB群、下位28校の抽出生徒300人程度をC群とし、調査対象としたものである。

(4) 小問別応答分析等（詳細分析は9ページから24ページまで）

5校から提供された300名の答案を到達度による得点区分によって、a群＝上位100人、b群＝中位100人、c群＝下位100人に分け、答案に直接当たって応答分析を行った。

なお、各群間の差がほぼ等間隔で付く場合は、〈a－b－c型〉、a群とb群、b群とc群との間隔の差が2：1程度以上で付く場合は、〈a－b c型〉、その逆の場合は、〈a b－c型〉、各群の間隔の差がほとんどない場合は、〈a b c型〉として分類してある。

3 調査結果の概要

調査対象の個人得点を10点幅の得点分布に分けて、平均点・標準偏差をみたのが、次の表2である。

学科別	普通科		総合学科		商業科系		家庭科系		その他		全 体	
人数	22,059名		1,955名		416名		561名		1,182名		26,173名	
得点	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
90～100	217	1.0	2	0.1	0	0.0	1	0.2	3	0.3	223	0.9
80～ 89	1,209	5.5	25	1.3	5	1.2	5	0.9	9	0.8	1,253	4.8
70～ 79	2,943	13.3	101	5.2	20	4.8	16	2.9	52	4.4	3,132	12.0
60～ 69	4,473	20.3	278	14.2	55	13.2	54	9.6	126	10.7	4,986	19.1
50～ 59	4,919	22.3	451	23.1	121	29.1	130	23.2	240	20.3	5,861	22.4
40～ 49	4,013	18.2	501	25.6	119	28.6	154	27.5	282	23.9	5,069	19.4
30～ 39	2,519	11.4	375	19.2	64	15.4	114	20.3	265	22.4	3,337	12.7
20～ 29	1,212	5.5	179	9.2	25	6.0	70	12.5	153	12.9	1,639	6.3
10～ 19	479	2.2	41	2.1	7	1.7	14	2.5	47	4.0	588	2.2
0～ 9	75	0.3	2	0.1	0	0.0	3	0.5	5	0.4	85	0.3
平均点	54.4		47.3		48.7		44.6		44.2		53.1	
標準偏差	17.2		14.8		13.5		14.4		15.4		17.1	

(表2)

4 分析結果の概要 (詳細分析は9ページから24ページまで)

(1) 論理的な文章(大問[一])を読む力について

松岡慧祐『グーグルマップの社会学 ググられる地図の正体』より、著作権の許諾を取った上で出題した。大問一全体の正答率は53.0%で、特に、本文全体から筆者の論じ方の特徴を理解する問題であった小問六では、正答率は27.2%にとどまった。今後は、文章の内容を理解するだけでなく、展開や構成など、どのように書かれているかについても理解できるように指導する必要がある。

(2) 文学的な文章(大問[二])を読む力について

角田光代著『Presents』より、著作権の許諾を取った上で出題した。大問二全体の正答率は46.2%で、登場人物の細かな心情の変化を的確に読み取ることに課題があることが分かった。今後は、様々な表現に触れて語彙を豊かにするとともに、文章の中の描写を根拠に、微妙な心情の移り変わりを読み取ったり推測したりする学習活動を充実させる必要がある。

(3) 国語基礎力(大問[三])について

前半は情報の理解と整理について、後半は漢字の読み書きや言葉の知識について出題した。前半の問いでは、文字による情報だけでなく、表やグラフからも情報を読み取り、それらを関連付けて内容を把握する力が必要であった。今後は、読み取った情報の扱い方についての学習とともに、基本的な論理的思考力を身に付けることができるように指導する必要がある。

(4) 古文(大問[四])を読む力について

鎌倉時代前期の説話物語集『宇治拾遺物語』より出題した。大問四全体の正答率は51.0%で、物の怪である狐が霊媒の女に取り憑くという設定が理解しづらかったようである。今後は、昔の人々の文化や、ものの見方・感じ方・考え方について生徒が関心をもつことができるよう、古典学習の指導を工夫する必要がある。

5 調査問題の構成及び正答率

(1) 調査問題の構成とねらい

調査問題は、現代文2題（論理的な文章と文学的な文章）、国語基礎力1題及び古典（古文）1題によって構成した。各小問のねらいや配点を表3に示す。

（表3）

大問	分野・領域	小問	小 問 の ね ら い	設問形態	小問数	配 点
一	現 代 文 (論理的文章)	一	内容の理解	選択 (1/5)	1	4×1
		二	内容の理解	選択 (1/5)	1	4×1
		三	文のつながりの理解	選択 (1/5)	1	4×1
		四	内容の理解	選択 (1/5)	1	6×1
		五	筆者の主張の理解	記述	1	6×1
		六	文章の構成や展開の理解	選択 (1/5)	1	6×1
					<6>	計30点
二	現 代 文 (文学的文章)	一	心情の理解	選択 (1/5)	1	2×1
		二	心情の理解	選択 (1/5)	1	2×1
		三	内容の理解	選択 (1/5)	1	4×1
		四	内容の理解	記述	1	4×1
		五	心情の理解	選択 (1/5)	1	4×1
		六	表現の理解	選択 (1/5)	1	4×1
					<6>	計20点
三	国語基礎力 (漢字・語彙等)	一	情報の理解と整理			
			(1)文字情報の読み取り	選択 (1/5)	1	2×1
			(2)グラフの読み取り	選択 (1/5)	1	2×1
			(3)複数の資料の内容理解	選択 (1/5)	1	3×1
		二	(4)話題の理解と問題解決	選択 (1/5)	1	3×1
			慣用句の知識	選択 (1/5)	1	2×1
			敬語の知識	選択 (1/5)	1	2×1
			副詞の呼応の理解	選択 (1/5)	1	2×1
		三	読点の使い方の理解	選択 (1/5)	1	2×1
			漢字の読みと書き取り	記述	6	2×6
					<14>	計30点
四	古 典 (古文)	一	歴史的仮名遣いの確認	記述	1	2×1
		二	内容の理解	選択 (1/5)	1	4×1
		三	内容の理解	選択 (1/5)	1	4×1
		四	内容の理解	記述	1	2×1
		五	内容の理解	選択 (1/5)	1	4×1
		六	内容の理解	選択 (1/5)	1	4×1
					<6>	計20点

(2) 科別・大問別・小問別正答率

次の表４は、各校の、無作為に抽出された10%の生徒の得点を処理して、正答率（％）を求めたものである。〔小計欄の正答率は、各小問の加重平均〕

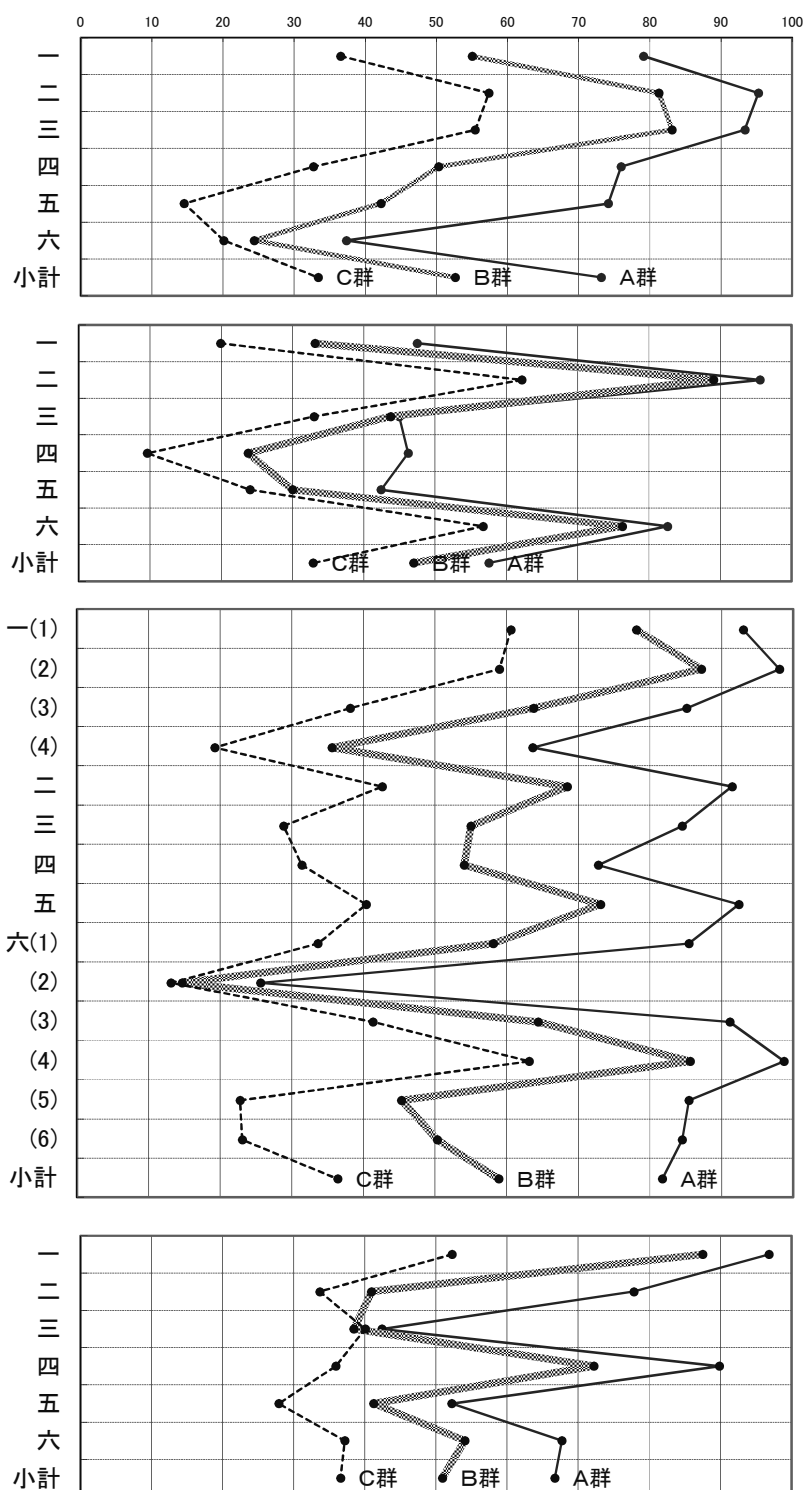
(表４)

大 問	学 科		普通科	総合学科	商業科系	家庭科系	その他	全体
	小問	配点	2,242	196	43	57	133	2,671
一	一	4	59.9	47.4	48.8	40.4	40.6	57.4
	二	4	81.8	71.4	88.4	75.4	69.2	80.3
	三	4	79.3	78.6	81.4	73.7	64.7	78.4
	四	6	53.5	45.9	37.2	39.8	33.1	51.4
	五	6	44.8	32.1	32.6	26.3	25.8	42.3
	六	6	28.1	20.9	30.2	26.3	20.8	27.2
	小計	30	54.7	46.1	49.1	43.7	39.2	53.0
二	一	2	34.9	24.5	25.6	40.4	21.8	33.5
	二	2	86.0	83.2	76.7	84.2	75.2	85.1
	三	4	40.6	40.8	51.2	43.9	42.9	41.0
	四	4	27.4	19.4	20.9	19.3	13.5	25.9
	五	4	32.4	28.1	37.2	29.8	28.6	31.9
	六	4	73.2	73.5	79.1	78.9	67.7	73.1
	小計	20	46.8	43.1	47.9	46.8	40.2	46.2
三	一(1)	2	81.9	80.1	93.0	75.4	70.7	81.3
	一(2)	2	84.3	82.7	86.0	71.9	71.4	83.3
	一(3)	3	64.7	64.3	79.1	56.1	56.4	64.3
	一(4)	3	37.1	21.9	20.9	31.6	27.8	35.2
	二	2	69.1	58.7	60.5	42.1	54.9	66.9
	三	2	56.6	35.2	48.8	35.1	29.3	53.1
	四	2	53.4	43.9	41.9	40.4	34.6	51.3
	五	2	71.6	61.7	81.4	59.6	63.2	70.3
	六(1)	2	62.9	51.0	67.4	42.1	50.4	61.0
	六(2)	2	20.1	16.3	18.6	10.5	17.3	19.4
	六(3)	2	68.2	63.8	86.0	57.9	57.1	67.4
	六(4)	2	86.0	79.6	81.4	68.4	73.7	84.4
	六(5)	2	54.6	45.4	41.9	31.6	28.6	51.9
	六(6)	2	55.5	42.3	34.9	22.8	36.8	52.6
	小計	30	61.1	52.7	59.5	46.0	47.6	59.5
四	一	2	82.9	80.1	88.4	71.9	66.9	81.7
	二	4	49.8	44.9	46.5	26.3	33.8	48.1
	三	4	40.4	41.8	41.9	38.6	36.8	40.3
	四	2	72.2	64.8	74.4	56.1	48.1	70.1
	五	4	38.8	38.3	53.5	40.4	25.6	38.3
	六	4	53.9	43.9	60.5	43.9	36.8	52.2
	小計	20	52.1	48.3	56.7	42.6	38.1	51.0

(3) 群別正答率比較表

(表 5)

大問	小問	A群	B群	C群
一 論 理 的 文 章	一	79.1	55.0	36.5
	二	95.3	81.3	57.4
	三	93.4	83.1	55.4
	四	75.9	50.3	32.7
	五	74.2	42.2	14.5
	六	37.3	24.4	20.1
	小計	73.2	52.6	33.4
二 文 学 的 文 章	一	47.5	33.1	19.9
	二	95.6	89.1	62.2
	三	44.9	43.8	33.0
	四	46.2	23.8	9.6
	五	42.4	30.0	24.0
	六	82.6	76.3	56.7
	小計	57.5	47.0	32.9
三 国 語 基 礎 力	一(1)	93.0	78.1	60.6
	(2)	98.1	87.2	59.0
	(3)	85.1	63.8	38.1
	(4)	63.6	35.6	19.2
	二	91.5	68.4	42.6
	三	84.5	55.0	28.8
	四	72.8	54.1	31.4
	五	92.4	73.1	40.4
	六(1)	85.4	58.1	33.7
	(2)	25.6	14.7	13.1
	(3)	91.1	64.4	41.3
	(4)	98.7	85.6	63.1
	(5)	85.4	45.3	22.8
	(6)	84.5	50.3	23.1
	小計	81.8	58.9	36.4
四 古 文	一	96.8	87.5	52.2
	二	77.8	40.9	33.7
	三	42.4	38.4	40.1
	四	89.9	72.2	35.9
	五	52.2	41.3	27.9
	六	67.7	54.1	37.2
	小計	66.7	50.9	36.6



(注) A・B・C群については、「2 調査の実施及び処理」(2ページ)の注を参照。

6 調査問題（一部掲載省略）及び解答

〔三〕 次の問いに答えよ。

問一 次の「会話」では、ある高校の図書委員三人が、年度末に【資料１】【資料２】を見ながら話している。これらの会話の内容や資料に基づいて、あとの問いに答えよ。

【会話】

委員 A 一年生の貸出数は、四月と五月と七月と十月に多いね。どうしてだろう。

委員 B 四月と五月は、図書館オリエンテーションのためかな。

委員 C そうですね。オリエンテーションの後、クラスの半分以上の人に本の貸し出しの処理をしました。

委員 A 七月と十月に多いのはなぜかな。

委員 C 夏休みに理科の自由研究の課題が出たので、夏休み前に一年生が百冊以上の参考資料を借りました。

委員 A 去年はそういう課題は出なかったね。

委員 B 十月に多いのは、一年生が総合的な学習の時間に行っている「地域の歴史」の発表の準備のためだよな。

委員 C そうです。七十冊ほどがそのための資料でした。先輩たちもやっさんですね。

委員 B うん。ところで、読書週間に配った手作りのしおりは、好評だったね。

委員 C はい。来年も頑張つて作りますね。

委員 B 来年は、もっと本の貸出数を増やしたいね。どうしたらいいかな。

委員 A 読書週間は効果があったから、さらにアビールをするといふね。あとは、貸出数が少ない月をなんとかしたいなあ。

委員 B 今年初めてやったビブリオバトルは、貸出数増加につながらなかったね。バトルで紹介された本を、図書館報で特集すればよかった。これらが次年度の課題だね。

※注 ビブリオバトル 本の紹介の巧みさを競い合うゲーム

【資料１】

図書館行事表	10月 生徒の芸術作品展
4月 新入生図書館オリエンテーション	11月 読書週間
5月 新入生図書館オリエンテーション	12月 ビブリオバトル
9月 読書感想文コンクール	1月 百人一首大会

〔3〕 【会話】および【資料１】【資料２】をふまえた解釈として最も適当なものを次から選び、かな符号で答えよ。

- ア 五月は読書週間があったため、本を借りた一年生が多かったのだから。
- イ 七月は、読書感想文用に本を借りた一年生が多かったのではないかな。
- ウ 十月の一年生の貸出数の多きは、生徒の芸術作品展の影響ではないかな。
- エ 十一月に二年生の貸出数が多いのは、読書週間があったからだろう。
- オ 十二月は、ビブリオバトルの効果で本がよく貸し出されたのだから。

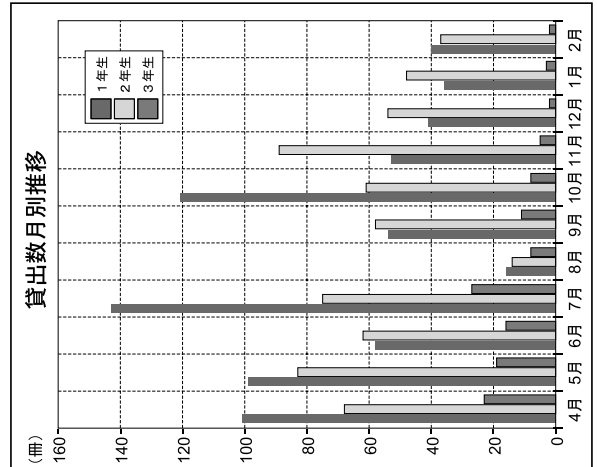
〔4〕 【会話】の に当てはまる内容として最も適当なものを次から選び、かな符号で答えよ。

- ア 年間を通して少ない三年生の本の貸出数を増やすためには、読書週間の回数を増やすのが一番効果的ではないかな。
- イ 八月は一年の中で貸出数が最も少ないよね。だからこの期間に図書館の本を図書委員で一声に整理できるんじゃないかな。
- ウ 一年生には、七月と十月に調査用の資料を借りるのを少し遠慮してもらって、読書用の本の貸出がもっと増えるんじゃないかな。
- エ 九月一日に読書感想文の提出があるよね。だから、九月は読書感想文を書くための推薦図書コーナーを作ったらどうかな。
- オ 十一月の読書週間が終わったら、すぐに百人一首関連の本をアビールすれば貸出数の増加に効果があるんじゃないかな。

問二 次の傍線部の言葉の使い方として正しいものを選び、かな符号で答えよ。

- ア 誕生日を祝ってもらい肩を落とす。
- イ あいまいな返事をして腹を刺す。
- ウ 他人に言わないようにと舌を巻く。
- エ 無事に到着できて肩をひそめる。
- オ 彼女を説得するのに肩が折れる。

【資料２】



〔1〕 【会話】から読み取ることができる内容として最も適当なものを次から選び、かな符号で答えよ。

- ア 図書館オリエンテーションでは、図書委員による説明がなされた。
- イ 夏休み前に借りられた本の多くは、動植物に関するものである。
- ウ 一年生は、例年「地域の歴史」を調べて発表している。
- エ 読書週間には、図書委員の手作りのしおりが展示された。
- オ ビブリオバトルで取り上げられた本は、図書館報で特集された。

〔2〕 【資料２】から読み取ることができる内容として最も適当なものを次から選び、かな符号で答えよ。

- ア 二年生の貸出数が一年生の半分程度の月が三か月ある。
- イ 二年生の方が、一年生よりも年間の貸出数が多い。
- ウ 一年生が多く本を借りる月は、二年生は増える傾向にある。
- エ 一年生の貸出数が二年生より多い月は、四・五・七・十月だけである。
- オ 一年生は、二年生よりも月ごとの貸出数の違いが大きい。

問三 次の傍線部の中から謙語を選び、かな符号で答えよ。

- ア 参加者にプレゼントを差し上げます。
- イ この電車には乗車できません。
- ウ 先生がおつしやるとおりですね。
- エ お客様がお帰りになります。
- オ こちらは有名な記念碑でございます。

問四 次の中から副詞の呼称が不適当でない文を選び、かな符号で答えよ。

- ア 彼は自分で言ったことをまかに忘れまい。
- イ 明日たとえ晴れたとしても試合は中止だ。
- ウ その人はめつたに約束を破らない人物だ。
- エ 彼女はさぞつらい思いをしたことだろう。
- オ その提案ならとうてい認められるはずだ。

問五 次の文のどこに読点（、）を打つと、あとのA・Bの状況が明確になるか。適当な箇所を【ア】～【エ】からそれぞれ一つずつ選り、かな符号で答えよ。

私は【ア】笑いながら【イ】話し続ける【ウ】彼女を【エ】ずつと見ていた。

- A 私が笑っている状況
- B 彼女が笑っている状況

問六 次の傍線部のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直せ。

- 〔1〕 ボウ活動に参加する。〔2〕 セキネンの恨みを晴らす。
- 〔3〕 ペンキで壁をスる。〔4〕 若き故のあやまちだ。
- 〔5〕 懶眠をむさぼる。〔6〕 被災地の復興に尽力する。

【四】 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

昔、物の怪^{もののけ}頭^{かしら}ひし所に物の怪^{もののけ}渡^{わた}しし程に、物の怪^{もののけ}、物つきに憑^よきていざやう、
「おのれは祟^{たたか}り^の物の怪^{もののけ}にても待^{まち}らず。うかれ^{うかれ}てまかり通^{とほ}りつる狐^{きつね}なり。塚^{つか}屋^やに
子どもなど侍^{さむらい}るが、物をほしがりつれば、かやうの所には食物^{しょくぶつ}散^ちるほふものぞか
しとて、まうで来^きつるなり。しときほら食^くてまかりなん」といへば、しときを
せさせて一折敷^{ひとしき}取^とり^のせれば、少し食^くひて、「あなさまや、うまや」といふ。
「この女のしときほしかりければ、そらもの憑^よきてかくいふ」と憎^{にく}みあへり。
「紙^{かみ}、賜^{たま}ひてこれ包^{つつ}みてまかりて、尊女^{そんじょ}や子どもなどに食^くはせん」といひければ、
紙を二枚引きちがくて包^{つつ}みれば、大きやかなる腰に挟^{はさ}みれば、胸にさしあ
がりてあり。かくて「追^おひ給^{たま}へ。まかりなん」と駭^{おど}る者にいへば、「追^おへ追^おへ」と
いへば、立ちあがりて倒^{たふ}れ伏^ふしぬ。しばしばかりありて、やがて起きあがりたる
に、懷^{おも}なる物^{もの}さらになし。未^なせにけるこそ不思議^{ふしぎ}なれ。

※注 物の怪 人間にとりつく、鬼神・妖怪や人間の生霊の総称。
物つき 物の怪を一時的に乗り移らせるための霊媒の女。
塚屋 塚六。狐がそこに住みついでいた。
しとき 米の粉をこねて作った餅。神前や仏前に供える。
折敷 四角い盆。食器や供え物をのせるのに用いる。
尊女 この子では老狐のこと。
駭者 加持・祈禱する僧。

（『宇治拾遺物語』巻第四 五十三）

問一 波線部「いざやう」を現代かなづかい（ひらがな）で記せ。

問二 傍線部①「まうで来つるなり」とあるが、この理由として最も適当なものを次から選び、かな符号で答えよ。
ア 病気ではない別の誰かに乗移るため。
イ 物の怪でないことを明らかにするため。
ウ 子どもたちのための食べ物を探すため。
エ 散らばっている食べ物を片付けるため。
オ 自分の前に供えられた餅を食べるため。

問三 傍線部②「憎みあへり」とあるが、人々は誰（何）を「憎みあへ」つたか。最も適当なものを次から選び、かな符号で答えよ。
ア 病人 イ 霊媒の女 ウ 物の怪
エ 狐 オ 子ども

問四 傍線部③「これ」の指す内容を本文から五字以内で抜き出せ。

問五 傍線部④「追ひ給へ。まかりなん」の解釈として最も適当なものを次から選び、かな符号で答えよ。
ア 私と一緒に狐を追いつめてください。退治しましょう。
イ 土産の餅をぜひ追加してください。いただきますよ。
ウ 私の後ろに必ずついてきてください。失礼しましょう。
エ 私を女の体から追い出してください。退散しましょう。
オ 迷った女を追いかけてくださる。探しに行きましょう。

問六 傍線部⑤「未せにけるこそ不思議なれ」の説明として最も適当なものを次から選び、かな符号で答えよ。
ア 餅が無くなったことで、狐の存在が明らかになり驚いている。
イ 餅におひき寄せられ、退治されてしまった狐に同感している。
ウ 物の怪を退散させた駭者の祈禱の効験を信じられないでいる。
エ 女が餅を持ち去ってしまったことの真意はわかりかかっている。
オ 人を憑はすとりついて、人々を苦しめる物の怪を恐れている。

平成三十一年度 新入生国語学力調査問題（解答と配点）

※かな符号で答えるべきところを選択肢の内容で答えた場合も正解とする。

【一】

問一	オ	問二	ウ	問三	ウ	問四	ア	問五	多様性	問六	エ
----	---	----	---	----	---	----	---	----	-----	----	---

問一～問三は各4点 問四～問六は各6点《小計30点》

【二】

問一	エ	問二	ウ	問三	イ	問四	ふ	さ	わ	し	い	問五	オ	問六	ア
----	---	----	---	----	---	----	---	---	---	---	---	----	---	----	---

問一・問二は各2点 問三～問六は各4点《小計20点》

【三】

問一	(1)	ウ	(2)	オ	(3)	エ	(4)	オ							
問二	オ				問三	ア		問四	オ		問五	A	イ	B	ア
問六	(1)	奉仕	(2)	積年	(3)	塗る	(A・B定価で2点)								
(4)	ゆえ	(5)	だみん	(6)	じんりよく	問一(3)(4)は各3点 その他各2点《小計30点》									

【四】

問一	いうよう				問二	ウ	問三	イ	問四	し	と	ぎ	(ぼら)	問五	エ	問六	ア
----	------	--	--	--	----	---	----	---	----	---	---	---	------	----	---	----	---

問一・問四は各2点 問二・三・五・六は各4点《小計20点》

7 問題別応答分析と指導上の留意点

表右端の％は、抽出校5校の生徒300人の正答率若しくは誤答率である。

(1) 大問〔一〕現代文（論理的文章）の応答分析，考察，指導上の留意点

問一

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一	正答	オ（利用者がコンピュータの示す情報を～）	81	56	42	179	59.7
	誤答	エ（利用者がコンピュータに最適な道順の～）	14	28	23	65	21.7
		イ（利用者がコンピュータの示す道順から～）	4	15	31	50	16.7
		ウ（利用者がコンピュータに情報を提供して～）	1	1	4	6	2.0
		ア（利用者がコンピュータの情報を簡単に～）				0	0.0

傍線部の内容を文脈に沿って理解する問題である。正答はオ「利用者がコンピュータの示す情報を受け取るだけになること」で、正答率は59.7％、〈a－b－c型〉を示している。

コンピュータによる検索結果やナビ機能に従うことで、ユーザーはコンピュータに導かれる受動的立場になるということを第一段落から読み取ることができれば正答に至る。この点、誤答エの内容も、「命令される」という受動的立場を示すことから、エ・オを選んだ8割以上の生徒はこのことについて理解できていると言える。ただ、「従属する」という言葉には「命令される」ほどの強い意味はない。他方、誤答イは、「選ぶ」という能動的行為を示していることから、これを選んだ生徒は、「従属」という言葉の受動的な意味を理解できなかったと考えられる。「道順」という具体的内容について書かれている誤答イ・エを選んだ生徒は、具体と抽象についての理解が足りないと言える。

問二

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問二	正答	ウ（望まない内容が省かれ、情報を探すのに～）	97	77	57	231	77.0
	誤答	ア（他人の意見を参照することで、政治的な～）	2	13	21	36	12.0
		エ（見たいものが次々と見られる分、不要な～）		4	12	16	5.3
		オ（多種多様な情報が得られるため、情報の～）	1	5	6	12	4.0
		イ（様々な考えの人が集まることで、集団の～）		1	4	5	1.7

傍線部の内容を文脈に沿って理解する問題である。正答はウ「望まない内容が省かれ、情報を探すのに手間がかからない利点がある」で、正答率は77.0％、〈a－b－c型〉である。

「見たいものしか見ない」という態度については、意見の多様性が失われるという欠点と、情報収集の効率がよくなるという利点とが、第三段落で対比的に述べられている。誤答アを選んだ生徒は、「参照」「政治的な意見」「強化」という本文中の言葉だけをよりどころとしてしまった可能性がある。また、他人の意見を参照すると政治的な意見が強化されるというアの内容は、本文では欠点として述べられていることに気付くべきであった。本問でポイントになるのは、**目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈する力（中2 C(1)イ※）**であることから、文章を丁寧に読み、内容を整理させる指導をする必要がある。

※中学校学習指導要領（平成29年7月）の指導事項であることを示す（以下同様）。

括弧の中の数字・記号の意味は、次の例のとおりである。

例：（中1(1)ア）…中学校第1学年〔知識及び技能〕(1)言葉の特徴や使い方に関する事項の
（中2 Cイ）…中学校第2学年〔思考力、判断力、表現力等〕C「読むこと」のイ

問三

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問三	正答	ウ（では）	96	84	56	236	78.7
	誤答	エ（ところが）	3	15	20	38	12.7
		イ（また）			12	12	4.0
		ア（したがって）	1	1	8	10	3.3
		オ（あるいは）			4	4	1.3

空欄の前後の文脈を理解し、その関係性を表す言葉を選択する問題である。正答はウ「では」で、正答率は78.7%、〈a b—c 型〉を示している。

空欄前には、「何ら否定されることではない」とグーグルマップの効率性が書かれ、空欄後にはグーグルマップが孕む問題が書かれている。空欄の前後がこのような相反する関係にあることから、誤答エを選んだ生徒は、両者の関係を逆接の関係にあると判断したようである。しかし、空欄後は疑問文になっていることに加え、その答えが次の段落以降で説明されていることから、この箇所は前述の内容を受けて、筆者が新たに問題を提起している箇所であることが分かる。そのことを理解できれば、問題を提起する働きをもつ接続詞「では」を選ぶことができる。

a・b 群に比べて正答率の低かった c 群の生徒には、**接続する語句の役割について理解を深めること（中 1 (1) エ）**の指導をしっかりと行う必要がある。

問四

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問四	正答	ア（「社会」を見わたす欲望を衰えさせる～）	83	48	22	153	51.0
	誤答	エ（「社会」を見わたすのに適した～）	12	40	53	105	35.0
		オ（自分にとって関心のあるものだけを～）	4	9	13	26	8.7
		ウ（「いま・ここ・わたし」への欲望を～）		2	10	12	4.0
		イ（自分の代わりに最適な情報を探索～）	1	1	2	4	1.3

傍線部の理由を文脈に沿って理解する問題である。正答はア「『社会』を見わたす欲望を衰えさせる力をもったデジタル地図が普及すると、人々は日常の身近な世界にとらわれ、広い視野をもてなくなっていくから」で、正答率は51.0%、群間差の大きい〈a—b—c 型〉を示している。

傍線部「世界はますます閉ざされていく」とは、広い視野がもてなくなることの比喩的な言い換えであるところ、「広い視野をもてなくなっていく」と書かれている正答アを選んだ生徒に加え、「広い視野をもとうとしなくなる」と書かれている選択肢エを選んだ、合計86.0%の生徒は、その点については理解できていると言える。ただ、本文下段 4 行目には、「『社会』を見わたす目的でグーグルマップを使っている」とあるところ、誤答エは「『社会』を見わたすのに適したデジタル地図」と述べていることから、誤答エを選んだ生徒は、文章全体の要旨をつかむことができていないことが分かる。正答に至るには、本文下段 14 行目の「グーグルマップの技術は、見えない『社会』を見わたすための『ズームアウト』への欲望そのものを衰退させ」という内容が、正答アの「『社会』を見わたす欲望を衰えさせる力をもったデジタル地図」に該当することに気付く必要があった。このことから、半数以上が誤答エを選択している c 群の生徒には、文章の要旨をつかむ力が足りないことが分かる。

問五

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問五	正答	多様性	86	41	12	139	46.3
	誤答	日常性	3	16	26	45	15.0
		可視化	3	10	12	25	8.3
		相対化	5	10	6	21	7.0
		影響力		6	11	17	5.7
		(その他)	3	13	27	43	14.3
		(無 答)		4	6	10	3.3

筆者の主張を本文全体から理解する問題である。正答は「多様性」で、正答率は46.3%、群間差の大きい〈a－b－c型〉を示している。

生徒の会話では、自分の価値観でしかものを見ることができなくなってしまうという、グーグルマップの負の側面が話題となっている。また、生徒Bの意見に生徒Aが「確かに」と共感していることから、生徒Aの言葉が空欄の手がかりとなり、空欄には「様々な立場」に相当する語句が入ると分かる。その情報を基に本文から適切な言葉を探せば、正答に至る。グーグルマップの負の側面については第五段落以降に述べられているが、その部分には適切な言葉は無いことから、本文全体を広く見渡すことが必要であった。「日常性」や「可視化」などの言葉は、ここでの話題に合わないばかりでなく、「失ってしまう」という空欄後の言葉にも合わないことから。このような言葉を抜き出した生徒は、文脈を考えることなく、指定された三字の言葉を探したのではないか。

本問では、文章の叙述を基に捉え、要旨を把握すること（中１Ｃア）や、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得ること（中２Ｃイ）が、正答に至るためのポイントであった。

問六

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六	正答	エ（対になる表現を効果的に用いることで～）	30	23	14	67	22.3
	誤答	イ（カタカナ語を多用することで～）	36	29	27	92	30.7
		ア（結論を先に述べることで～）	16	23	25	64	21.3
		オ（筆者からの問いかけを繰り返すことで～）	6	15	19	40	13.3
		ウ（学者の説を紹介することで～）	12	10	13	35	11.7
		(無 答)			2	2	0.7

本文全体から筆者の論じ方の特徴を理解する問題である。正答はエ「対になる表現を効果的に用いることで、問題を対比的に分かりやすく示そうとしている」で、正答率は22.3%、低位の〈a b c型〉を示している。

本文では、デジタル地図の特徴が紙の地図と比較しながら述べられており、「ズームイン」と「ズームアウト」、「絶対化」と「相対化」など対になる言葉を何度も用いながら、デジタル地図の負の側面が浮き彫りにされている。このような本文の論じ方に気付くことができれば、正答に至る。

本問では、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること（中２Ｃエ）が求められる。しかし、全ての群において正答率が30%以下であったことから、全体的に文章展開や修辞の効果、表現の特徴についての理解が不足していることが分かる。今後は、「どのような内容が書かれているか」ということだけでなく、「どのように書かれているか」という視点で様々な文章に触れ、文章の特徴について理解させる指導が必要である。

〈指導上の留意点〉

実 態 及 び 問 題 点	
文章を読む際に、「どのような内容が書かれているか」という視点に比べて、「どのように書かれているか」という視点が弱く、表現の特徴や文章の構成を捉える力が不足している。	
指導における改善の具体策	
「どのように書かれているか」ということについて理解できるよう、表現技法や文章の構成にはどのようなものがあるかについて学んだ上で、様々な文章を読み、表現上の工夫や構成について指摘したり、その効果について考えたりする指導を行う。	
展開 1	表現の特徴を捉えるとはどういうことかについて理解する。 ※指導者が文章を引用し、説明する。 仮名遣い・表記符号（句読点など）・漢語・和語・外来語・品詞・ 長文・短文・単文・重文・複文・過去形・現在形など (ねらい：多様な表現上の特徴があることに気付く。)
展開 2	国語便覧等を参考に、基本的な表現技法や、文章の構成についての知識を得る。 擬人法・対句法・倒置法・比喩法・列挙法・擬声（態）語・体言止 め・統括法・尾括法・双括法・暗示法など (ねらい：様々な表現技法や文章の構成について理解する。)
展開 3	既習の教材から、表現上の特徴をできるだけ多く挙げる。 (ねらい：表現上の特徴をつかむ練習をする。)
展開 4	4～6人のグループで展開 3の活動を行う。 その後、挙げられた表現上の特徴がどのような効果を上げているかについて、意見を交換する。 小説：幻想的な世界観の構築など 評論：筆者の主張の強化など 最終的に、班で意見をまとめる。 (ねらい：表現の特徴に筆者の意図があることに気付く。)
展開 5	展開 4でまとめた内容を班ごとに発表する。 その後、質疑応答の時間を設ける。 (ねらい：一つの表現にも議論の余地があることに気付く。)
発展	学んだ表現上の工夫を用いて、文章を書く。 (ねらい：自分でも様々な技法を用いて表現できるようになる。)

(2) 大問〔二〕現代文（文学的文章）の応答分析，考察，指導上の留意点

問一

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一	正答	エ（～名前を思い入れをもって付けていた～）	40	39	15	94	31.3
	誤答	オ（～名を悩んで付けたことを隠していた～）	49	47	38	134	44.7
		ア（～名前を多くの候補の中から選んだ～）	9	9	17	35	11.7
		ウ（～名前の字画や書き順を気にしていた～）	2	2	19	23	7.7
		イ（～性別が分からず両方の名を考えた～）		3	11	14	4.7

文脈に即して，登場人物の心情を理解する問題である。正答はエ「母も父と，生まれてくる子の名前を思い入れをもって付けていたということ」で，正答率は31.3%，〈a b—c型〉を示している。

本問では，傍線部①の次行にある「そっと指でなぞる」という表現から，母に対する春子の温かい思いを読み取ることができれば，オが誤りであることが分かる。しかし，実際には，5割近い生徒がオを選択している。その理由として，「そっけなく言った」という母の行動から，悩んで名前を付けたことを隠してはぐらかしたと，表面的に読み取ってしまったのではないか。

また，a・b群の誤答はほぼオに集まっているが，c群では各選択肢の数にあまり差がない。誤答ア・イ・ウはそれぞれ部分的には本文に書かれている内容であることを考えると，c群の生徒は本文の一部だけを読んで，一致する言葉を含んだ選択肢を選んでいようである。

本問では，登場人物の心情の変化について，描写を基に捉えること（中1Cイ）がポイントである。作問段階ではそれほど難しくない設問であると考えていたが，実際には正答率が約3割にとどまったことを考えると，心情を直接表す言葉からだけでなく，言動の描写などからも心情を正確に読み取ることができるよう，指導を行う必要がある。

問二

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問二	正答	ウ（「私」を気にかける言葉の割にあわてた～）	94	93	62	249	83.0
	誤答	イ（会社に遅れてまで出産に付き添って～）	2	3	24	29	9.7
		ア（冷静で落ち着いたある夫がそばに付いて～）	4	2	9	15	5.0
		エ（一生懸命「私」を楽しませようとする夫の～）		2	4	6	2.0
		オ（のんきなことを言って「私」の心配を全く～）			1	1	0.3

文脈に即して，登場人物の心情を理解する問題である。正答はウ「『私』を気にかける言葉の割にあわてた様子の夫のことがおかしかったから」で，正答率は83.0%，高位の〈a b—c型〉を示している。

本問では，出産前の緊迫した状況の中で，言葉とは裏腹に，夫自身が緊張していることを理解できるかが問われる。そのことが理解できないと，笑うという「私」の行動を，不安を感じている中での安心感によるものであると解釈してしまうだろう。

本問では，場面の展開や登場人物の相互関係，心情の変化などについて，描写を基に捉えること（中1Cイ）がポイントである。また，誤答を選んだ生徒は，「貧乏揺すり」「うわずった声」という言葉そのものの意味が理解できていないか，これらの様子が緊張から生じていることを理解できていないと考えられる。そのような意味では，事象や行為，心情を表す語句の量を増すこと（中1(1)ウ）も重要である。

問三

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問三	正答	イ（どこまでも続く満開の桜に～）	54	38	28	120	40.0
	誤答	エ（美しい桜を車窓から眺めて～）	35	33	38	106	35.3
		ア（桜の続く道が子どもの生きる～）	5	8	13	26	8.7
		ウ（桜のことなどすっかり忘れて～）		10	15	25	8.3
		オ（走っても走ってもとぎれない～）	6	9	6	21	7.0
		（ 無 答 ）		2		2	0.7

傍線部の比喻表現の内容を文脈に即して理解する問題である。正答はイ「どこまでも続く満開の桜に見とれ、異空間へ連れて行かれるような不思議さを覚えている」で、正答率は40.0%、〈a－b－c型〉を示している。

本問では、傍線部前後の描写も含めた比喻表現の内容を問うているが、誤答エを選んだ生徒が多い。この場面ではまだ母親の気持ちに思いは及んでおらず、傍線部⑤において初めて母の思いに気付いているが、誤答エを選んだ生徒は、このような順を追った読解ができなかったと考えられる。あるいは、『私』が母に思いを寄せる」若しくは、「母親になることに思いを馳せる」という本文の主題を先取りして考えてしまったということも考えられる。後者の分析については、誤答ア・ウ・オのように、「私」の心情を過度に読み込んだ選択肢を選んだ生徒もそれぞれ一定数いることから、その可能性が考えられる。

本問では、場面の展開や登場人物の心情の変化について、描写を基に捉えること（中1Cイ）や、文章の展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えること（中1Cエ）がポイントである。今後は、描写を基に内容を正確に理解する力を育む必要がある。

問四

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問四	正答	ふさわしい	47	18	9	74	24.7
	誤答	美しい	43	65	38	146	48.7
		私を見送る	1	4	4	9	3.0
		色鮮やかな		2	5	7	2.3
		美しい世界			5	5	1.7
		色鮮やか	2	1	1	4	1.3
		（ 無 答 ）	3	5	12	20	6.7
		（ その他 ）	4	5	26	35	11.7

言葉の本文中での意味を文脈に即して読み取る問題である。正答は「ふさわしい」で、正答率は24.7%、低位の〈a－b－c型〉を示している。

傍線部は、車窓から見える全てのものに魅力を感じる「私」の気持ちを表している。ただ、「ゴミをあさるカラス」や「洗濯物」までもが対象に含まれていることを考えると、一般的な「美しさ」とは異なる魅力に対する気持ちであることが読み取れる。「美しい」や「色鮮やかな」という誤答は、傍線部のみに着目し、傍線付近から類似した語句を選択したと考えられる。

正答率が低かった理由として、正答の「ふさわしい」という語が傍線部から離れた箇所にあるため、傍線部前後や隣接する段落から選んでしまったことが考えられる。また、「美しい世界」や「色鮮やか」という誤答からは、空欄後の「状態」に続く形で抜き出せなかったり、語を抜き出すという指示に従えなかったりする生徒もいることが分かる。問われていることが本文全体の文脈の中でどのよう

に位置付けられているかを判断できるように、b・c群の生徒を中心に、目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結びつけたりして、内容を解釈すること（中1Cウ）ができるように指導する必要がある。

問五

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問五	正答	オ（名前にこだわりのあった「私」が～）	43	36	24	103	34.3
	誤答	イ（母が名前に込めた特別な思いに～）	54	55	54	163	54.3
		ウ（他人の名前をうらやましく思っていた～）	2	2	8	12	4.0
		ア（子の名前をあれこれと決めかねていた～）	1	4	6	11	3.7
		エ（自分の名前が好きになれなかった～）		3	8	11	3.7

文脈に即して、登場人物の心情を理解する問題である。正答はオ「名前にこだわりのあった『私』が、母の願いに気付き、名前に特別な意味などなくてもいいと思うようになった」で、正答率は34.3%、〈a－b－c型〉を示している。

傍線部⑤は、「私」が自分の名前に込められた母の思いに気付いて発した言葉である。これは、問一で問われた傍線部①の気付きとは別のものである。第一段落では、「私」は両親が自分の名前を懸命に考えてくれたことには気付いたが、その名前に込められた思いにはまだ気付いていない。しかし、ここで名前を懸命に考えたことを母が隠していたと誤読してしまうと、本問においても「母が名前に込めた特別な思いに気付いていた」「再確認」という内容を含む誤答イを選択してしまうことが考えられる。誤答イを選んだ生徒は、このように本文全体を誤って理解してしまったのではないだろうか。

本問で正答に至らなかった生徒は、登場人物の心情の変化について、描写を基に捉えること（中1Cイ）の力が不足していると考えられる。

問六

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六	正答	ア（目にしたものや接したものによって～）	86	83	54	223	74.3
	誤答	イ（登場人物が母親に対して抱く複雑な～）	5	3	17	25	8.3
		ウ（作品全体の特徴と言ってよい非現実的な～）	4	7	8	19	6.3
		オ（出産を控えた「私」の落ち着いた～）	2	2	14	18	6.0
		エ（「私」の言葉が夫に知られたくない内容か～）	3	3	7	13	4.3
		（ 無 答 ）		2		2	1.0

本文の表現の特徴を把握する問題である。正答はア「目にしたものや接したものによって変化する『私』の気持ち」が、時間の流れに沿って描かれている」で、正答率は74.3%、〈a b－c型〉を示している。

本文では、名前辞典や桜、タクシーからの風景といったものによって「私」の気持ちに変化しており、時間の順序が逆になっているところはない。このような特徴を理解できれば、正答に至る。イ・ウ・オといった誤答を選んだ生徒は、「タイムマシン」の箇所の描写から、誤った特徴を捉えてしまったようである。

正答アの「時間の流れに沿って描かれている」点は、文章全体の構成や展開を的確に理解していなければ捉えられないことから、本問では、話や文章の構成や展開について理解を深めること（中2(1)オ）がポイントとなる。a・b群と正答率に差のあったc群の生徒には、このような力を身に付けさせたい。

〈指導上の留意点〉

実態及び問題点

文学的文章の理解には、豊かな言語感覚と、目的に応じて複数の情報を整理しながら登場人物の言動の意味などについて考え、内容を解釈することが必要である。ところが、登場人物の言動や情景描写を基に解釈する力が全体的に不足しており、部分的な記述だけに着目したり、誤った語感や先入観を基にして、内容を正確に理解できない生徒が少なくない。そこで、本文に従って内容を正確に読み取る力を育む指導が求められる。

指導における改善の具体策

文学的文章の大意を読み取り、他者に伝えることを通して、文章の理解を深められるようにする。また、本文の一部分を長く豊かに言い換えたり説明したりすることを通して、内容を詳しく読み取る力も育む。さらに、詳細に理解した上で、文章にタイトルを付けることで、再び大意を読み取らせる。この「大意→詳細→大意」の展開の中で、文学的文章について概略をつかんだり詳細に読んだりできるよう指導する。

【指導展開例】※生徒の実態に合わせ、各展開例を組み合わせで行う。

展開①〔ねらい：文章の中心的な部分と付加的な部分の関係に注意し、大意を捉える。〕

- ・本文全体を大局的に捉え、作品のタイトルを自由に付ける。【個人の活動】
- ・自身が付けたタイトルについて、なぜそのようなタイトルを付けたのかを、他者に説明をする。その際、根拠となる記述や場面を含めて説明をする。【ペアワーク】

展開②〔ねらい：文章を精査・解釈し、詳細な読解ができるようにする。〕

- ・本文のある箇所について、どのような意図が込められているか、隠されている思いを補って長く豊かに説明する。【個人の活動】
- ・他者の答えを参照し、自分のものと比較する。【ペアワーク・グループワーク】
- ・他者のより良い点を参考にし、自分の考えを再構成する。【個人の活動】

展開③〔ねらい：詳細な読解を踏まえて再び大意を読み取ることで、概略をつかんだり、詳細に読み取ったりする力を身につける。〕

- ・展開①と同様に、本文にタイトルを付ける。
- ・注目した記述や場면을抜き出し、なぜそのようなタイトルを付けたのかを説明する。その際、展開①と意見が変わった場合にはその理由も説明できるようにする。【ペアワーク】
- ・他者の意見を聞き、自身の考えと比較する。

【ワークシート例】

へ〜大問二の本文を載せる〜

☆この文章は、角田光代『春』の中の一部であるが、この箇所にタイトルを付けるとしたら、どのようなタイトルがふさわしいか。考えてみよう。

☆タイトルを付けた理由を説明しよう。
ヒント 根拠となる部分を本文から抜き出してみよう

(例) ・〇頁△行目「〜」

・春子の「春」であり、また舞台が春だから

☆「なんだ、あなただってこんなふうに悩んだんじゃないの」とあるが、このときの私の気持ちを反映させて、長く豊かに言い換えなさい。

(例) 「なんだ、そっけなく言っていたからたいして迷いなく決めたのかと思っただけど、あなただって私の名前を悩んでつけてくれたのね」

☆友人の答えを見せてもらおう (最低3人)

☆自分の答えを改善しよう。

☆タイトルをもう一度考えてみよう。

(3) 大問〔三〕国語基礎力の応答分析，考察，指導上の留意点

問一

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一 (1)	正答	ウ（一年生は，例年「地域の歴史」を～）	90	88	57	235	78.3
	誤答	エ（読書週間には，図書委員の手作りの～）	8	5	24	37	12.3
		ア（図書館オリエンテーションでは～）		4	12	16	5.3
		イ（夏休み前に借りられた本の多くは～）	2	3	3	8	2.7
		オ（ビブリオバトルで取り上げられた本は～）			4	4	1.3

文字情報を読み取る問題である。正答はウで，正答率は78.3%，〈a b－c 型〉を示している。誤答エを選択しているのは，「読書週間」「手作りのしおり」という言葉のみに注目してしまったためであろう。必要な情報を全て読み取るよう注意を払う必要がある。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一 (2)	正答	オ（一年生は，二年生よりも月ごとの貸出数の～）	99	88	59	246	82.0
	誤答	ウ（一年生が多く本を借りる月は，二年生は～）		4	15	19	6.3
		エ（一年生の貸出数が二年生より多い月は～）		4	13	17	5.7
		イ（二年生の方が，一年生よりも年間の～）	1	2	7	10	3.3
		ア（二年生の貸出数が一年生の半分程度の～）		2	6	8	2.7

グラフから情報を読み取る問題である。正答はオで，正答率は82.0%，高位の〈a b－c 型〉を示している。c 群の生徒には，図表から読み取ったことを話し合う言語活動などを行わせるとよいだろう。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一 (3)	正答	エ（十一月に二年生の貸出数が多いのは～）	81	65	45	191	63.7
	誤答	イ（七月は，読書感想文用に本を借りた～）	5	18	21	44	14.7
		ア（五月は読書週間があったため～）	10	12	15	37	12.3
		ウ（十月の一年生の貸出数の多さは～）	4	5	13	22	7.3
		オ（十二月は，ビブリオバトルの効果で～）				6	2.0

複数の資料から内容を理解する問題である。正答はエで，正答率は63.7%，〈a－b－c 型〉を示している。文章と図表などを結び付け，内容を解釈すること（中2 Cウ）に各群で差があった。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一 (4)	正答	オ（十一月の読書週間が終わったら～）	56	37	18	111	37.0
	誤答	エ（九月一日に読書感想文の提出が～）	20	28	21	69	23.0
		ア（年間を通じて少ない三年生の～）	15	22	31	68	22.7
		イ（八月は一年生の中で貸出数が～）	8	10	19	37	12.3
		ウ（一年生には，七月と十月に調査用の～）		3	9	12	4.0
		（無 答）	1		2	3	1.0

話題を理解し，解決策を考える問題である。正答はオで，正答率は37.0%，〈a－b－c 型〉を示している。本問では，文章の種類を踏まえて，論理の展開を捉えること（中3 Cア）や，意見と根拠の関係を理解すること（中2 (2) ア）が必要である。イを選ぶのは前者の力が，ア・ウ・エを選ぶのは後者の力が不足していると言える。エは選択肢の内容そのもののつじつまが合っていないにもかかわらず，a 群も含めて多くの生徒が選んでいる。言葉を注意深く読む力を身に付けさせたい。

問二

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問二	正答	オ（彼女を説得するのに <u>骨が折れる。</u> ）	87	68	37	192	64.0
	誤答	ウ（他人に言わないようにと <u>舌を巻く。</u> ）	12	28	45	85	28.3
		イ（あいまいな返事をして <u>腹を割る。</u> ）		3	10	13	4.3
		ア（誕生日を祝ってもらい <u>肩を落とす。</u> ）	1	1	3	5	1.7
		エ（無事に到着できて <u>眉をひそめる。</u> ）			5	5	1.7

慣用句の知識を問う問題である。正答はオで、正答率は64.0%、〈a－b－c型〉を示している。慣用句の例文を実際に作るなどの表現活動を通じて、知識の定着を図りたい。

問三

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問三	正答	ア（参加者にプレゼントを <u>差し上げます。</u> ）	81	54	36	171	57.0
	誤答	ウ（先生が <u>おっしゃる</u> とおりですね。）	6	19	23	48	16.0
		イ（この電車には <u>ご乗車</u> になれません。）	4	8	16	28	9.3
		エ（お客様が <u>お帰り</u> になります。）	3	10	14	27	9.0
		オ（こちらが有名な記念碑で <u>ございます。</u> ）	6	9	10	25	8.3
		（ 無 答 ）			1	1	0.3

敬語の知識を問う問題である。正答はアで、正答率は57.0%、〈a－b－c型〉を示している。正答に至るには、敬語の種類と具体的な敬語表現を理解し、使い分ける知識及び技能が必要である。授業内で敬語を使用する場面を増やし、早期定着を図りたい。

問四

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問四	正答	オ（その提案ならとうてい認められるはずだ。）	75	51	35	161	53.7
	誤答	ア（彼は自分で言ったことをまさか忘れまい。）	24	42	34	100	33.3
		エ（彼女はさぞつらい思いをしたことだろう。）	1	1	11	13	4.3
		イ（明日たとえ晴れたとしても試合は中止だ。）		3	9	12	4.0
		ウ（その人はめったに約束を破らない人物だ。）		3	8	11	3.7
		（ 無 答 ）				3	1.0

副詞が正しく呼応しているかどうかを見分ける問題である。正答はオで、正答率は53.7%、〈a－b－c型〉を示している。普段の学習の中で、音読を通して様々な副詞の呼応の仕方に気付かせたい。

問五

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問五	正答	Aイ Bア	90	73	54	217	72.3
	誤答	Aイ Bエ	7	19	20	46	15.3
		Aア Bエ	1	5	10	16	5.3
		Aウ Bア			5	5	1.7
		（ その他 ）	2	3	11	16	5.3
		（ 無 答 ）			1		0.3

読点の使い方を問う問題である。正答はA＝イ・B＝アで、正答率は72.3%、〈a－b－c型〉を

示している。主語と述語、修飾語と被修飾語の関係を理解し、適切に読点を使えるようにさせたい。

問六

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (1)	正答	奉仕	84	74	47	205	68.3
	誤答	奉□ (□が別の字, または無表記)	9	7	8	24	8.0
		□仕 (□が別の字, または無表記)	1	3	5	9	3.0
		(その他)	2	7	10	19	6.3
		(無 答)	4	9	30	43	14.3

「ハウシ」を漢字に直す問題で、正答率は68.3%, 〈a b - c 型〉を示している。平成7年度(正答率48.2%), 平成14年度(正答率44.7%), 平成19年度(正答率45.7%)にも出題されたが、正答率は今回が最も高かった。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (2)	正答	積年	25	14	11	50	16.7
	誤答	積念	25	29	17	71	23.7
		責念	14	12	10	36	12.0
		□念 (□が別の字, または無表記)	16	17	17	50	16.7
		□年 (□が別の字, または無表記)	6	9	8	23	7.7
		(その他)	6	5	7	18	6.0
		(無 答)	8	14	30	52	17.3

「セキネン」を漢字に直す問題で、正答率は16.7%, 低位の〈a - b c 型〉を示している。「年」を「念」と書き誤る解答が全体の52.4%あり、最も多い誤答であった。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (3)	正答	塗 (る)	78	78	52	208	69.3
	誤答	斜+土 (る)	4	4	3	11	3.7
		「さんずい」→「にすい」(る)	2	1		3	1.0
		(その他)	8	11	14	33	11.0
		(無 答)	8	6	31	45	15.0

「ヌ (る)」を漢字に直す問題で、正答率は69.3%, 〈a b - c 型〉を示している。様々な種類の誤答が見られ、「塗」を曖昧に記憶している生徒が見受けられる。普段から正確に漢字を書く指導をしたい。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (4)	正答	ゆえ	99	93	75	267	89.0
	誤答	こ		2	8	10	3.3
		(その他)	1	2	10	13	4.3
		(無 答)		3	7	10	3.3

「故」の読みを答える問題で、正答率は89.0%, 高位の〈a b - c 型〉を示している。正答率は問六の中で最も高く、全体的によくできている。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (5)	正答	だみん	77	56	28	161	53.7
	誤答	ずいみん	5	16	9	30	10.0
		じょうみん	3	3	13	19	6.3
		(その他)	11	17	29	57	19.0
		(無 答)	4	8	21	33	11.0

「惰眠」の読みを答える問題で、正答率は53.7%、〈a－b－c型〉を示している。「惰」「眠」ともに中学の常用漢字であるが、「惰」の読みを答えられない生徒が多かった。

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六 (6)	正答	じんりよく	76	52	33	161	53.7
	誤答	ついりよく	5	9	10	24	8.0
		じんりき	4	4	6	14	4.7
		(その他)	15	28	33	76	25.3
		(無 答)		7	18	25	8.3

「尽力」の読みを答える問題で、正答率は53.7%、〈a－b－c型〉を示している。平成20年度（正答率48.0%）よりも正答率は上昇している。誤答の多くは「尽」の音読み「ジン」を読めていない。

〈指導上の留意点〉

実態及び問題点	
今回の分析から、多くの生徒に意見と根拠の関係を理解する力が不足していることが分かった。	
指導における改善の具体策	
実際に社会で起こっている問題を取り上げ、解決のための具体策を考えさせる。次は、商店街の活性化を考える取組である。資料から問題点を理解し、根拠に基づく合理的な解決策を考え、グループ発表をする。その際、思考の筋道が分かるように、フローチャートを用いて示す。	
〔学習活動例〕 - 資料から気付いたことを書き出し、商店街活性化のための具体策を考える。 - グループで意見を出し合って、具体策をまとめる。 - 各グループでフローチャートを作成し発表をする。 - 他のグループの発表を聞き、根拠に基づく合理的な具体策かどうかを話し合い、相互評価する。 〔発表フローチャート例〕 資料2で注目した理由 1 か所で買い物が済まない 店に入りづらい（出づらい） 理由の分析 荷物が困る→物理的負担 個人商店は苦手→心理的負担 どうすればよいか 荷物が増えても困らないようにする→物理的負担の軽減 店が利用者と関わり方を工夫し、「見るだけ」の客も積極的に受け入れるようにする→心理的負担の軽減 ★スーパーマーケットの中を自由自在に動けると同様に、商店街のどの店も身軽に・気軽に出入り可能にするためには？ 問題解決のための具体策 商店街全体で使えるショッピングカートを導入しよう	〔ワークシート〕 【課題】客の減少に悩む商店街活性化のためにはどうしたらよいだろうか。資料を基に具体策を考えてみよう。 資料1 商店街利用頻度 n=2,227 資料2 商店街を利用しない理由 n=1,229 (1) 資料1・2からどのようなことが言えるか、書き出す。 (2) 商店街活性化のためにはどのようなことが有効か、自分の具体策を出す。 (3) お互いの具体策が資料に基づく合理的なものかどうかグループで話し合い、意見をまとめる。 https://www.pref.saitama.lg.jp/a0301/supporter/kani60.htm 埼玉県ホームページ 第60回簡易アンケート 「商店街の利用について」の結果

(4) 大問〔四〕古典（古文）の応答分析、考察、指導上の留意点

問一

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問一	正答	いうよう	92	86	60	238	79.3
	誤答	いうやう	6	8	13	27	9.0
		その他	2	5	18	25	8.3
		(無 答)		1	9	10	3.3

歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題である。正答は「いうよう」で正答率は79.3%、〈a b－c 型〉を示している。本問で正答に至るには、語頭以外の「ハ」「ヒ」「フ」「ヘ」「ホ」を「ワ」「イ」「ウ」「エ」「オ」に直すことや、「やう」を「よう」に直すことなど、文語のきまりについての知識が必要である。最も多かった誤答は「いうやう」であることから、「いふ」を「いう」に直すことは理解しているが、「やう」を「よう」と直すことが定着できていないことが分かる。よって、高校での古典学習の初めに歴史的仮名遣いを教える際には、五十音図を理解させることと併せて、母音が重なる際の読み方について再確認させる必要がある。

また、繰り返し音読をすることで、古文のリズム感を大切にすること、音読を通して語句の読み方を理解することも重要である。音読に必要な文語のきまりを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむこと（中1(3)ア）について指導し、様々な作品に触れさせることで、語彙を豊かなものにしていきたい。

問二

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問二	正答	ウ（子どもたちのための食べ物を探すため。）	72	46	21	139	46.3
	誤答	イ（物の怪でないことを明らかにするため。）	8	24	19	51	17.0
		エ（散らばっている食べ物を片付けるため。）	8	10	33	51	17.0
		オ（自分の前に供えられた餅を食べるため。）	10	20	19	49	16.3
		ア（病気ではない別の誰かに乗り移るため。）	2		3	5	1.7
		(無 答)			5	5	1.7

文脈に即して、傍線部の内容を理解する問題である。正答はウ「子どもたちのための食べ物を探すため」で、正答率は46.3%、群間差の大きい〈a－b－c 型〉を示している。正答に至るには、解答の根拠となる箇所を本文中からの的確に見つけることが重要となる。根拠となる箇所は、三行目の「子どもなど侍るが、物をほしがりつれば」であり、a 群の生徒の多くは、正しく根拠を見つけられたと言えよう。

本問では、誤答のそれぞれについて、根拠と考えられる記述が本文中に書かれているため（アは一行目、イは二行目、エは三行目、オは四行目）、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈すること（中2 C イ）が重要となる。a 群に比べ、正答率の低かった b・c 群の生徒は、そうした力に課題があると考えられる。

また、誤答の中で特に着目すべき点は、c 群の生徒の多くが誤答エを選んだことである。誤答エを選んだ生徒は、傍線部直前の「かやうの所には食物散ろぼふものぞかし」に着目し、理由の根拠としてしまったようである。c 群の生徒は、部分的な読みにとどまってしまう傾向にあるため、文章全体から内容を理解する力を育成する必要がある。

問三

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問三	正答	イ（霊媒の女）	51	30	29	110	36.7
	誤答	エ（狐）	27	35	28	90	30.0
		ウ（物の怪）	15	33	27	75	25.0
		ア（病人）	7		8	15	5.0
		オ（子ども）		2	3	5	1.7
		（ 無 答 ）			5	5	1.7

文脈に即して、傍線部の内容を理解する問題である。正答はイ「霊媒の女」で、正答率は36.7%、〈a－b c型〉を示している。本問で正答に至るには、文章全体と部分との関係に注意しながら、場面の展開や登場人物の相互関係などについて、描写を基に的確に捉える力が必要である。

第一段落は、一行目「物の怪、物つきに憑きていふやう」から、「物の怪（狐）」が「物つき（霊媒の女）」に取り憑いて正体を語る場面であることに気付く必要がある。また、「物の怪（狐）」が語っている場面では、六行目「そらもの憑きてかくいふ」から、人々はそれを信じられずに「霊媒の女」が取り憑かれたふりをしているのだと認識していることを理解しなければならない。どちらも本文全体の内容の解釈のために重要な箇所である。

第一段落の内容を十分に理解できなかった生徒は、「女の（持っている）しとぎ」を食べる「物の怪」や「狐」に対して、「（人々は）憎みあ」っていると捉えているようである。また、b・c群の誤答の多くがウ・エであることから、「物の怪」と「狐」が同じ存在であるということについて理解できなかった生徒が多かったことが分かる。場面の展開や登場人物の相互関係について、描写を基に捉えること（中1Cイ）や、登場人物の言動の意味について考えて、内容を解釈すること（中2Cイ）がポイントであることから、多くの生徒は、こうした力に課題があるということを念頭に置いて指導する必要がある。

問四

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問四	正答	しとぎ（ばら）	88	77	48	213	71.0
	誤答	女のしとぎ	10	11	2	23	7.7
		一折敷		1	4	5	1.7
		懐なる物	1	1		2	0.7
		（ その他 ）		4	23	27	9.0
		（ 無 答 ）	1	6	23	30	10.0

前後関係から指示内容を理解する問題である。正答は「しとぎ（ばら）」で、正答率は71.0%、〈a b－c型〉を示している。傍線部の前後より、「これ」が紙に包んで持ち帰り、専女や子どもなどに食べさせるものであることが分かれば、正答に至る。「女のしとぎ」、「懐なる物」と答えた生徒は、「これ」が「しとぎ（ばら）」であるということは理解できたと言える。ただ、「女のしとぎ」と解答した生徒は、問三で述べたように、「女の（持っている）しとぎ」と誤読している可能性が高い。

c群の生徒の誤答の中には、傍線部直前の「紙賜りて」や「憎みあへり」という解答が複数あり、「これ」が名詞であることが理解できなかった生徒が多数いる。c群の生徒においては、単語の類別について理解するとともに、指示する語句の役割について理解を深めること（中1(1)エ）について指導していきたい。

問五

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問五	正答	エ（私を女の体から追い出してください。～）	60	24	20	104	34.7
	誤答	ア（私と一緒に狐を追いつめてください。～）	21	41	32	94	31.3
		オ（逃げた女を追いかけてください。～）	12	28	26	66	22.0
		ウ（私の後ろに必ずついてきてください。～）	4	6	10	20	6.7
		イ（土産の餅をぜひ追加してください。～）	3	1	7	11	3.7
		（ 無 答 ）			5	5	1.7

文脈に即して、傍線部の内容を理解する問題である。正答はエ「私を女の体から追い出してください。退散しましょう」で、正答率は34.7%，群間差の大きい〈a－b c型〉を示している。正答に至るには、「物の怪（狐）」が「物つき（霊媒の女）」に取り憑いていること、その「物の怪」が「物つき」の体から自分を追い出すよう「験者」に要求していることなど、**場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること（中1 Cイ）**が重要となる。

本問は、本文全体の内容を理解していないと正答に至らない問いであり、正答を選んだ生徒は全体を通して丁寧に読解できていると考えられる。誤答アを選んだ生徒は、傍線部の会話主が「狐」だと理解できず、問三と同様、「憎む」べき対象を「狐」と誤読している。また、誤答オを選んだ生徒は、「追ふ」という言葉の意味を、「追いかける」と捉えてしまい、文脈上で意味を捉えることができなかったようである。そうした生徒に対しては、語句の辞書的な意味だけではなく、文脈に沿って意味を解釈していくよう指導したい。

問六

小問	正誤	解 答 例	a 群	b 群	c 群	合計	%
問六	正答	ア（餅が無くなったことで、狐の存在が～）	80	58	34	172	57.3
	誤答	ウ（物の怪を退散させた験者の祈禱の～）	9	20	22	51	17.0
		エ（女が餅を持ち去ってしまったことの～）	4	13	20	37	12.3
		イ（餅におびき寄せられ、退治されて～）	5	4	11	20	6.7
		オ（人を選ばずとりついて、人々を苦しめる～）	2	4	8	14	4.7
		（ 無 答 ）		1	5	6	2.0

本文全体から、傍線部の内容を理解する問題である。正答はア「餅が無くなったことで、狐の存在が明らかになり驚いている」で、正答率は57.3%，〈a－b－c型〉を示している。正答に至るには、傍線部に描かれている心情を具体的に理解しなければならず、文章の要点を把握し、場面と場面、場面と描写などを結びつけて本文全体の内容を解釈する力が求められる。

傍線部直前に「懐なる物さらになし」とあることから、傍線部は、しとぎの包みが突然無くなり、「物の怪」の存在が明らかになったことに対する人々の気持ちを表している。本文全体の内容を解釈するためには、第一段落の内容と、第一・二段落の関係性を理解する必要がある。そして、第二段落においては語句の意味や会話主について特に丁寧に読み取っていかなければならない。誤答ウを選択した生徒は、「不思議なれ」の意味について考えるだけにとどまっており、文と文のつながりや場面と場面の関係を捉えることができていない。誤答エを選択した生徒は、問三・五においても言及したが、「物の怪（狐）」が「物つき（霊媒の女）」に取り憑いている場面であることを理解できていない。

本問では、**場面の展開や登場人物の相互関係について、描写を基に捉えること（中1 Cイ）**がポイントであることから、特に正答率の低かったc群の生徒には、恣意的な理解とならないよう、本文を丁寧に読む姿勢を身に付けさせたい。

〈指導上の留意点〉

実態及び問題点

今回の分析から、古典作品に描かれる「物の怪」や「人に化ける狐」などの、先人のものの見方・感じ方・考え方についての理解がやや不足していることが分かった。そこで、様々な古典作品を読ませ、生徒が先人の考え方などを知り、古典に対する関心を高められるようにしたい。

指導における改善の具体策

関心をもった古典作品を読み、その内容や形式について話し合ったり発表したりすることによって、先人のものの見方・感じ方・考え方に関心をもつ、古典を進んで学習する意識や態度を養う。

【指導展開例】 取り組み

・物の怪（狐など）が登場する作品を読み、作品紹介をする。また他グループの発表を聞き、「物の怪」の特徴や相違点をまとめ、先人のものの考え方について気付いたこと、疑問に思ったことなどをまとめる。

展開1

・各グループ（五名程度）に分かれ、「物の怪」について調べ、まとめる。
【ワークシート①】
※何人かの生徒を指名し、発表させる。

展開2

・「物の怪」が登場する古典作品をインターネットや書籍などから探す。
・その作品について各グループで読解し、物の怪の特徴や作品の内容についてまとめ、全体で発表する。【ワークシート②③】
※情報室や図書室で展開できるとよい。
※古文で読解するか現代語訳で読解するかは、学校の実態に合わせて選択する。

※できる限り同じ作品にならないよう、指導者が調整する。

例：「狐・家に火つくる事」『宇治拾遺物語』

今は昔、甲斐国に館の侍なりける者の、夕暮に館を出でて家まで行きける道に、狐のあひたりけるを追ひかけて引目して射れば、狐の腰に射当てけり。狐射まらばかされて、鳴きわびて、腰をひきつつ草に入りけり。この男引目を取りて行く程に、この狐腰をひきて先に立ちて行くに、また射んとせば失せにけり。
家いまだ四五町に見えて行く程に、この狐町ばかり先だちて、火をくはへて走りければ、「火をくはへて走らばいかなる事ぞ」とて、馬を走らせけれども、家のもとに走り寄りて、人になりて火を家につけてけり。「人のつくるにこそありけれ」とて、矢をはけて走らせけれども、つけ果ててければ、狐になりて草の中に走り入りて失せにけり。さて家焼けにけり。
かかる物もたちまちに仇を報ふなり。これを聞きて、かやうの物をば構えて調はずまじきなり。

展開3

・展開2の発表で取り上げられた「物の怪」の特徴や相違点についてまとめる。【ワークシート④】

・また、古典作品に描かれる先人のものの見方・感じ方・考え方などについて、気付いたことや疑問に思ったことなどをまとめ、グループ内で意見交換をする。【ワークシート⑤】

発展

・先人のものの見方・感じ方・考え方について論述し、自分の考え方を広げたり深めたりする。

ワークシート記入例

①「物の怪」について調べよう。

「物の怪」

人にとりついて害をする死霊・生き霊・妖怪の類。

②「物の怪」が登場する作品を読解しよう。

・選んだ作品

「狐・家に火つくる事」『宇治拾遺物語』

③作品を紹介しよう。

・「物の怪の特徴」
・人に化けて、仇を返す狐。

【作品紹介】
・侍が狐を矢で射ると、狐の腰に矢が当たった。鳴き苦しんで逃げる狐を、侍が追いかける。

・狐が人に化け、侍の家を火をつける。侍は人が火をつけたのだと勘違いする。

・侍の家は狐の放火により、焼けてしまふ。

← 教訓 → 狐でも仇を返すのだ。動物を決して痛めつけてはならない。

④他グループの発表を聞いて、「物の怪」の特徴や相違点をまとめよう。

略

略

⑤今回の学習を通して、先人のものの見方・感じ方・考え方に関して気付いたこと、疑問に思ったことなどをまとめ、意見交換をしよう。